

# 令和6年産 稲作情報 第7号

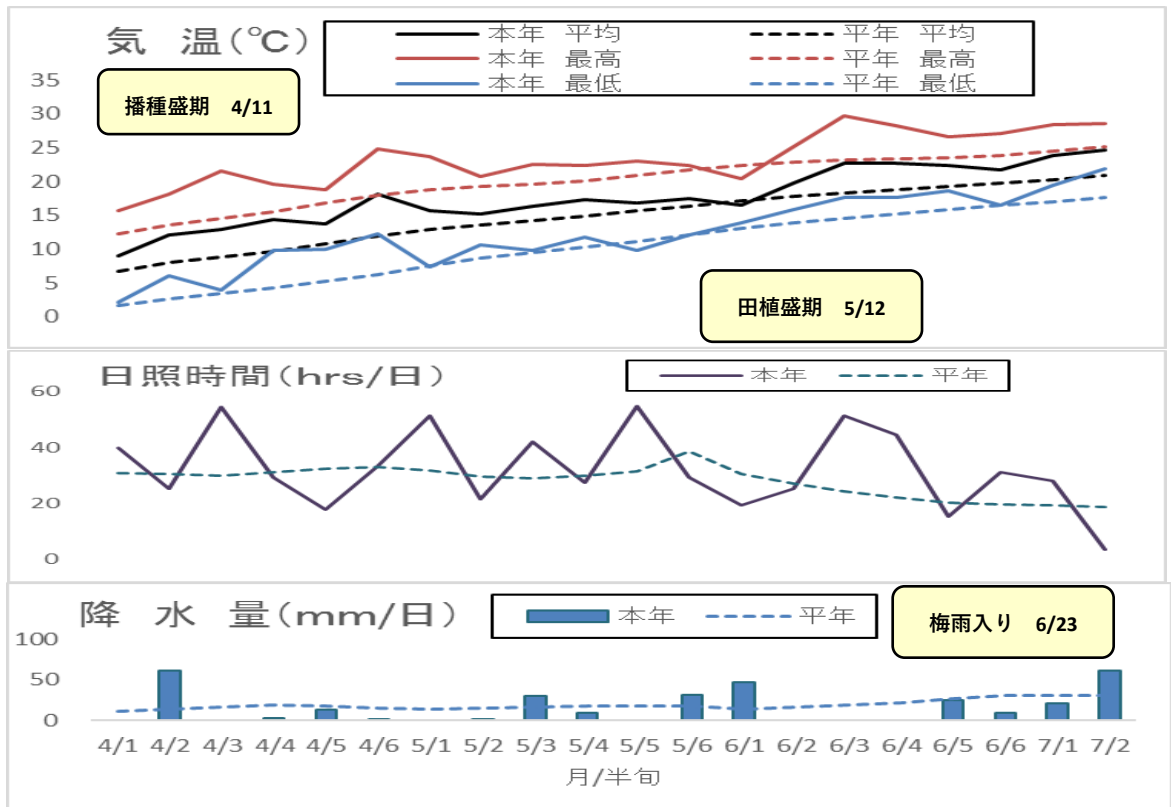
令和6年7月16日

JA全農みやぎ

～県平均出穂期は前年並み～平年並みの見込み～

～水管理は飽水管理を！ 追肥・病害虫防除等 早めの準備を～

## 1 令和6年の気象経過（古川アメダス）と東北地方の1か月予報



### ◆7月11日発表 東北地方の1か月予報(7月13日～8月12日までの天候見通し)【気象庁ホームページより】

- ・期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多い。期間の後半は、天気は数日の周期で変わる。期間の前半は、気温がかなり高くなる可能性がある。
- ・向こう1か月の気温は、高い確率80%、平年並み若しくは低い確率10%。
- ・降水量は、多い若しくは少ない確率30%、平年並みの確率40%。
- ・日照時間は、多い若しくは少ない確率30%、平年並みの確率40%。

| 気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%) |      |                       |          |
|-----------------------|------|-----------------------|----------|
| 気温                    | 東北地方 | 向こう1か月<br>07/13～08/12 | 10 10 80 |
|                       |      | 1週目<br>07/13～07/19    | 10 10 80 |
|                       |      | 2週目<br>07/20～07/26    | 10 20 70 |
|                       |      | 3～4週目<br>07/27～08/09  | 20 30 50 |
| 降水量                   | 東北地方 | 向こう1か月<br>07/13～08/12 | 30 40 30 |
| 日照時間                  | 東北地方 | 向こう1か月<br>07/13～08/12 | 30 40 30 |

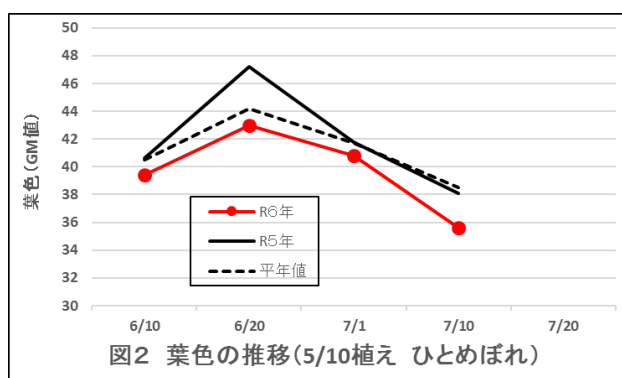
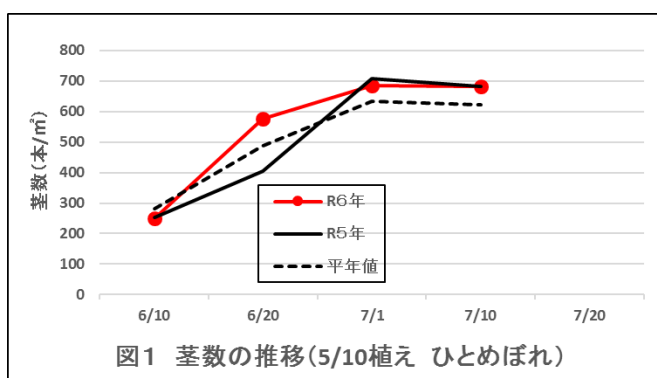
■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

## 2 生育状況（7月10日現在）

（1）作況試験 5月10日植え ひとめぼれ（古川農業試験場）

- ・草丈は67.1cmで平年比109%，茎数は683本/㎡で平年比110%である。
- ・葉色（GM値）は35.6で，平年より低く，前回調査時より低下している。
- ・葉数は10.7枚で平年より0.3枚多く，生育ステージは平年よりやや進んでいると見込まれる。
- ・幼穂長は1.8mmで，平年並みの7月7日頃に幼穂形成期に達したとみられ，出穂期は7月31日頃と予想される。

| 草 丈         |            |            | 茎 数          |            |            | 葉 色          |              |              | 葉 数        |            |            | 幼 穂 長       |             |             |
|-------------|------------|------------|--------------|------------|------------|--------------|--------------|--------------|------------|------------|------------|-------------|-------------|-------------|
| 本 年<br>(cm) | 前年比<br>(%) | 平年比<br>(%) | 本 年<br>(本/㎡) | 前年比<br>(%) | 平年比<br>(%) | 本 年<br>(GM値) | 前年差<br>(GM値) | 平年差<br>(GM値) | 本 年<br>(枚) | 前年差<br>(枚) | 平年差<br>(枚) | 本 年<br>(mm) | 前年差<br>(mm) | 平年差<br>(mm) |
| 67.1        | 98         | 109        | 683          | 100        | 110        | 35.6         | -2.5         | -2.9         | 10.7       | -0.2       | 0.3        | 1.8         | -0.2        | -0.2        |

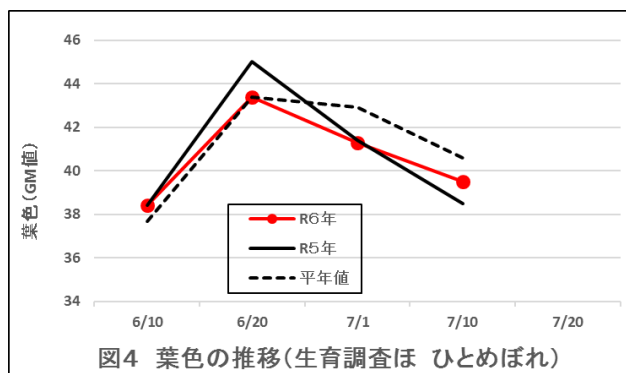
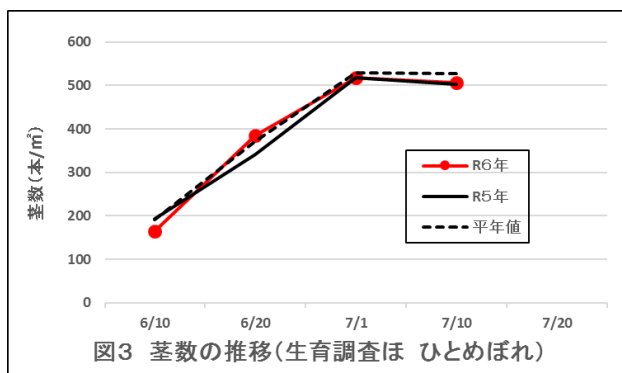


（2）生育調査ほ（古川農業試験場及び各農業改良普及センター）

- ・品種別の草丈は63～66cm程度，平年比104～109%で，平年よりやや長めである。
- ・茎数は471～556本/㎡，平年比90～96%となっており，平年よりやや少ない。
- ・葉色（GM値）は39前後で，前回調査時より低下（ひとめぼれ）している。

●古川農業試験場の「作況試験」や「生育調査ほ」の調査結果から推察すると，茎数は平年並み～やや少なめ，葉色はやや低く，生育ステージは平年よりやや進んでいると思われる。

| 品種名   | 草 丈         |            |            | 茎 数          |            |            | 葉 色          |              |              |
|-------|-------------|------------|------------|--------------|------------|------------|--------------|--------------|--------------|
|       | 本 年<br>(cm) | 前年比<br>(%) | 平年比<br>(%) | 本 年<br>(本/㎡) | 前年比<br>(%) | 平年比<br>(%) | 本 年<br>(GM値) | 前年差<br>(GM値) | 平年差<br>(GM値) |
| ひとめぼれ | 66.0        | 99         | 104        | 507          | 101        | 96         | 39.5         | 1.0          | -1.1         |
| ササニシキ | 63.5        | 101        | 105        | 556          | 99         | 92         | 39.3         | 0.2          | 0.6          |
| つや姫   | 66.1        | 99         | 109        | 471          | 87         | 90         | 39.0         | -2.6         | -3.8         |



- ・移植時期別（ひとめぼれ）の草丈は 61～71cm 程度で、平年比 97～108% である。
- ・茎数は㎡当たり 482～579 本で、平年比 96～100% である。
- ・葉色は 37.6～40.6 で、平年並み～やや低下している。

●草丈は平年並み～やや長く、葉色が低下してきている。

| 移植時期    | 草 丈         |            |            | 茎 数          |            |            | 葉 色          |              |              |
|---------|-------------|------------|------------|--------------|------------|------------|--------------|--------------|--------------|
|         | 本 年<br>(cm) | 前年比<br>(%) | 平年比<br>(%) | 本 年<br>(本/㎡) | 前年比<br>(%) | 平年比<br>(%) | 本 年<br>(GM値) | 前年差<br>(GM値) | 平年差<br>(GM値) |
| 5/1～9   | 70.5        | 103        | 108        | 544          | 102        | 97         | 37.6         | -1.3         | -3.5         |
| 5/10～19 | 64.5        | 96         | 104        | 482          | 99         | 96         | 40.6         | 2.9          | 0.8          |
| 5/20～31 | 61.2        | 95         | 97         | 579          | 98         | 100        | 40.2         | -0.1         | -2.4         |

### （３）幼穂の生育状況【参考】

- ・ 7 月 9 日調査；JA いしのまき管内の「つきあかり（5 月 3 日移植，ひとめぼれより 2～4 日程度早い品種）」で、幼穂長 63mm（減数分裂期）。出穂期は 7 月 21～22 日頃と見込まれる。
- ・ 7 月 10 日調査；JA 加美よつば管内の「ひとめぼれ（5 月 3 日移植，ポット成苗）」の幼穂長は 15cm 程度で、出穂期は 7 月 22～24 日頃と見込まれる。

◆7 月下旬になると、早生品種や 5 月上旬植えの中生品種（「ひとめぼれ」や「ササニシキ」など）の出穂が始まり、県平均の出穂期は前年並み（7 月 30 日頃）～平年並み（8 月 2 日頃）と見込まれる。

## 3 今後の管理

### （１）水管理

- ・ 出穂前から出穂後 30 日頃までの期間は、稲が最も水を必要とする時期である。
- ・ 今年は春先から降水量が少なく、県内各地のダムでは、平年より貯水量が少ない状態が続いている。今後 1 か月の降水量が平年を下回った場合、8 月に十分な農業用水が確保できなくなる可能性がある。
- ・ これらのことから、出穂後 30 日頃までは、限られた用水で「飽水管理」を行い、土壌を湿った状態に保つ（令和 6 年 7 月 11 日 宮城県米づくり推進本部発表）。

#### ●飽水管理の方法

- ①水尻を閉め、畦畔からの漏水が無いか確認する。
- ②田面がひたひたに湿るくらいに水を入れる。
- ③水を止めたら、水尻は閉めたまま、自然減水させる。
- ④水田の足跡に水が無くなる頃（目安は 3～5 日おき）、次の水を入れる。

#### ◆飽水管理のメリット

- ①限られた用水で、水管理が可能である。
- ②地面が見える（空気が土の中に入る）ので、根の活力維持に有効である。
- ③湛水状態（水が暖められ、夜間でも温度が下がらない）と異なり、地温の上昇を抑制できる。

→ 稲の温度が夜間に下がるため、光合成により作られた養分が靱に転流しやすくなる。

→ 「白未熟粒」や「胴割粒」の発生を抑制できる。



